

199生第614号
平成19年 5月30日

九州農政局管内各県農政主管部長 あて

九州農政局消費・安全部長
生産経営流通部長

少雨における水稲作の技術指導について

このことについて、平成19年5月28日付け19生産第1437号をもって別添写しのとおり消費・安全局植物防疫課長、生産局農産振興課長から通知がありました。

貴県におかれましても、本格的に田植えが行われる時期を前に、今後の気象状況、生育段階に即したきめ細かな管理を迅速かつ組織的に行えるよう、体制づくりについてよろしく願います。また、実効ある取組みが為されるよう、貴県管内農業者等への適切な指導をお願いします。

(参考)

- 5月28日に気象庁が発表した「西日本の少雨に関する全般気象情報」
 - ・ 九州における3月1日から5月26日までの降水量の平年比は、福岡62%、鹿児島84%。
 - ・ 今後2週間程度は、まとまった雨が見込まれない。
- 5月15日現在における九州の主要農業ダム(48ダム)の合計貯水率は、58%で平年並み。
- 5月15日現在で、県の発生予察情報はなし。



19生産第1437号
平成19年5月28日

九州農政局生産経営流通部長 殿

消費・安全局植物防疫課長
生産局農産振興課長

少雨における水稲作の技術指導について

今年の気候については、春以降、西日本を中心に、少雨傾向で推移し、一部地域で渇水や水稲に田植えの遅れが発生している状況にある。

さらに、5月28日に気象庁が発表した「西日本の少雨に関する全般気象情報（別添）」において、今後2週間程度まとまった量の雨は見込まれないとされている。

これらのことを踏まえて、水稲作につき、下記事項を基本に、各地域の条件や状況に応じた適切な対応が行われるよう、貴局管内の各府県に対し指導の徹底を図られたい。

記

- 1 今後の気象の見通しや水源池の貯水状況を踏まえ、かんがい水の不足が予想されている地域では、あらかじめ地域の利水者協議会等関係機関との協議を進め、生育段階に応じた計画的な配水が行われるように準備する。特に、最も重要な幼穂形成期から出穂・開花期にかけては、必要な用水が確保されるよう計画的な用排水利用に十分配慮する。また、かんがい施設の点検・整備を行い、用水路や畦畔等からの漏水防止を徹底する。
- 2 今後田植えを予定している地域で水不足が深刻な地域にあっては、配水計画に応じた田植時期の調整とこれに合わせた計画的な育苗、当番制による水利用、代かき水の節水等を推進する。
- 3 分けつ期にある地域にあっては、用排水の反復利用等による節水を推進する。
- 4 高温及び晴天が続く場合には、紋枯病、ウンカ類等の病害虫が発生しやすい状況になることから、都道府県の発生予察情報を参考に適切な防除を行う。

(別添)

西日本の少雨に関する全般気象情報 第1号

平成19年5月28日10時30分 気象庁発表

(見出し)

春以降、西日本を中心に、ほぼ全国的に降水量の少ない状況となっています。今後2週間程度もまとまった雨は見込まれません。水や農作物の管理等に注意してください。

(本文)

春以降、西日本を中心に、全国的に降水量の少ない状況となっています。このため、取水制限の実施されている河川があるほか、農作業への影響も懸念されています。今後2週間程度もまとまった雨は見込まれないことから、さらに影響の拡大する可能性があります。水や農作物の管理等に十分注意してください。

なお、3月1日から5月26日までの各地の降水量および平年比は以下の通りです(速報値)。

高松	146 (ミリ)	59 (%)
山	196	61
高知	329	49
徳島	133	41
広島	380	93
岡山	167	59
松江	223	63
鳥取	245	70
大阪	255	74
福岡	220	62
鹿児島	504	84
東京	298	83
名古屋	239	60
津	181	46